

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第 5 回武蔵村山市地域福祉計画策定懇談会
開 催 日 時	令和 2 年 1 2 月 1 日 (火) 午後 2 時から午後 4 時まで
開 催 場 所	4 0 1 大集会室
出 席 者 (送 付 先)	出席者：和気座長、大谷委員、英保委員、吉富委員、伊豫部委員、遠藤委員、大久保委員、藤倉委員、石井委員、藤崎委員、木下委員、鈴木委員、清野委員 欠席者：山田委員、星委員、植村委員 事務局：福祉総務課長、福祉総務課係長（福祉総務係）、コンサルタント（3名）
議 題	報告事項 (1) 第 4 回武蔵村山市地域福祉計画策定懇談会の会議録（要旨）について (2) 第 4 回地域福祉計画策定懇談会における指摘事項について (3) その他 議題 (1) 第五次地域福祉計画（素案）の検討について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	(1) 計画の理念については、策定委員会で決定したものを承認した。 素案に関する指摘事項は内容等を確認し、事務局で検討を行う。 (2) 特になし
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (○=委員、 ●=事務局)	2 報告事項 (1) 第 4 回武蔵村山市地域福祉計画策定懇談会の会議録（要旨）について (参考「資料 1 第 4 回武蔵村山市地域福祉計画策定懇談会の会議録（要旨）」) 【説明要旨】 ● 何か修正点があれば本日から一週間の間で事務局までご連絡いただきたい。その修正を以て会議録を確定し、武蔵村山市附属機関等の会議、および会議録の公開に関する指針、第 11 条および第 12 条の規定に基づき市政情報コーナー、および市のホームページ上で公開させていただくのでご了承いただきたい。 ○ 一週間以内にご確認いただき、修正点があれば事務局にご連絡いただきたい。以上で会議録はご承認をいただきたいと思う。 (一同異議なし) (2) 第 5 回地域福祉計画策定委員会における指摘事項について（参考「追加資料 1 第 4 回地域福祉計画策定懇談会及び第 5 回地域福祉計画策定委員会における指摘・修正点」「資料 2 第 5 次武蔵村山市地域福祉計画（素案）」) 【説明要旨】 ● 追加資料 1 に基づき事務局説明 【主な意見等】 ○ 12 ページの注釈の成年後見制度の部分で「後見」、「補助」、「補佐」となっているが、「後見」→「補佐」→「補助」の順番の方が良い。 ● ご指摘を踏まえ、修正する。 ○ 110 ページの権利擁護事業の充実の内容はよいとして、連携の相手が「社会福祉協議会やボランティア、NPO 法人等」となっており、これ

だと「ボランティア個人」に読めてしまう。実際に、ボランティアが個人レベルで連携を取っているのか。それによって書きぶりが変わってしまう。

- ボランティア個人では行っていないという認識を持っているので、ここではボランティア団体という書き方でいかがか。
- ボランティアの方が市民後見講座を受けて後見活動に入るというルートとしては確かにそうであるが、「ボランティア団体と連携」というのはすこしおかし気がする。成年後見をメインの活動としてボランティア活動を行っている団体は聞いたことがない。
- 家庭裁判所から選任される時、基本的には、社協が法人後見を請け負い、社協に法人後見人として登録している養成講座を受けた人たちが活動しているという形が多いので、個人で行うことはあまりない。
- 実際にボランティアと連携することはあるのか。
- 実際に運用としては無いに等しい。
- 市民後見人のニーズはあるのか。
- 昔は東京都で市民後見の養成講座を行っていたが、平成 26 年を最後に行っていない。それ以降は市町村が独自に行っている。
- 今後の市として市民後見を推進していくことは想定しているのか。
- 市としては成年後見を進めていきたいと思うが、実際に本計画期間中に市民後見まで進められるかは課題だ。
- では、110 ページについては「ボランティア」を削るということによるしいか。
(一同異議なし)

(3) その他

- 素案の 69 ページの基本理念について「①みんながつながり 支えあい 自分らしく安心して暮らせる 福祉のまち」、「②みんなが自分らしく 支え合いながら 地域の絆をはぐくむ 福祉のまち」、「③みんなが自分らしく とともに支えあい 活躍(安心)できる福祉のまち」の 3案を策定委員会に提示した。その結果、②の後半部分と③の前半部分を組み合わせるものとして「みんなが自分らしく とともに支えあい 地域の絆をはぐくむ 福祉のまち」が全会一致で決定した。事務局としてもこちらを新たな基本理念として考えているので、皆様からご意見をいただきたい。
- 基本理念については随分と議論してきた。計画の理念は非常に大事であり、その一言一言に意味が込められている。委員会の結論として良しとしたい。
(一同異議なし)

議題

(1) 第五次地域福祉計画(素案)の検討について(参考「資料2 武蔵村山市第五次地域福祉計画(素案)」)

【説明要旨】

- 資料2に基づき事務局説明

【主な意見等】

- 18 ページの 1 会議体による計画内容の審議の(2)武蔵村山市地域福祉計画策定懇談会は懇談会ではなくて委員会だと思う。
- ご指摘を踏まえ、修正する。
- 23 ページの保護司の欄で 28 名とあるが、常に定数 28 名というわけではないため、数字はいらないと思う。

- 保護司は武蔵村山市の地域資源の一つとして 28 名という数字をあえて入れさせていただいた。ここで、ご意見としていないのではないかとということであれば、「法務大臣から委嘱を受けた保護司が」という表現に修正する。
- 103 ページのところで「再犯率」という言葉が 3 つあるが、「再犯者率」にさせていただきたい。
- 再犯率と再犯者率の違いを踏まえ、修正する
- 103 ページに保護司の充足がある。28 人というのはあくまで定数であり、もちろん、常に充足率 100%とすることを目標に努めてはいるが、定年や個人的な理由で辞められたりということがあるため、人は出たり入ったりしているという状況だ。なので、目標については、定数 28 名に達するように日々努力をしていくべきで、令和 2 年と令和 8 年を比べることにあまり意味はない。表現として、令和元年度現在と令和 8 年度目標の欄を一つにして、「定数 28 人の充足（令和 2 年現在○人）」ということによいのではないか。
- 確かに目指すのは充足率 100%であり、「28 人の充足」ということになるが、「100%を目指します」という表記だけだと現時点で何人いるのか比較できない。他の指標などのとの兼ね合いもあり、比較できるということで数字を入れている。
- それでは、時期によって人数が変わってくるので、いつの時期の数字なのか事務局と調整したい。
- この点については、いまの書き方だと、保護司の定数は令和元年 4 月現在は 24 人で、令和 8 年までに 28 人にしましょうと読めてしまう。なので、「保護司の充足」ではなく、「保護司の充足率」という表現に直し、令和元年は 24/28、令和 8 年度は 28/28 ということで、現状では保護司が足りないということを明らかにしていただき、令和 8 年度までに充足率を 100%するというを示していただきたい。
- ご指摘の通り、当初は率にしていたが、内部委員会において率だと分からないと言われたことで、人数に置き換えた。一般の方からは 100%はどういう数字なのか分からない。24 人を 28 人に増やすだけなのか。その先の計画では 32 人になると見て取れるので、定数に対してどれくらい充足しているのか記載を検討させていただきたい。
- 135 ページと 137 ページに附則があり、135 ページでは「要綱～」が 1 つ、「訓令～」が 1 つとなっているが、137 ページでは「要綱～」が 2 つあり、「訓令～」が 1 つになっている。なぜなのか教えてほしい。
- 計画の要綱を修正した際に、我々地域福祉課が福祉総務課に変わったことで町内の訓令をまとめて修正した経緯があるのでこのような表記になっている。
- 119～120 ページの生活困窮者の自立支援のところでは進学支援が明記されているが、社会福祉協議会では進学の貸付だけでなく、出産や葬祭、住宅担保型貸付などがあるので、その辺りも盛り込んでいただければと思う。
- 資金の貸付の件になるが、生活福祉資金の貸付というのは市において、関連する所管課がない。社会福祉協議会の事業になり、福祉総務課と書くのも違う。可能であれば地域福祉活動計画の方に記載できればという考えである。
- 78 ページの福祉教育・福祉学習の推進の内容の下の部分に「社会福祉協議会が行う各種福祉講座～」とあるので、社協としても協力していきたい。その一方で、70 ページの基本目標 1 地域を支える人づくりのところでは社会福祉協議会のことが載っていないので、整合性を図るので

あれば社会福祉協議会も入れていただきたい。また、ここではボランティア・市民活動センターが中核となって市民活動を支援していることが記載されているが、77～78 ページの福祉教育・福祉学習の推進のところに入っていないので、整合性を取っていただくとありがたい。

- 77～78 ページについてはご指摘いただいたところで、70 ページに社会福祉協議会の表記が無く、逆に 77～78 ページではボランティア・市民活動センターのことが触れられていないので、こちらは所管課と記載内容、役割分担について整理・確認したい。
- 72 ページの地域福祉エリアの設定の図のところでは一番小さなエリアとして地域自治圏域は自治会の圏域となっているが、地域福祉活動を盛んに進めているところでは、自治会圏域では少し細かいため、小学校区域くらいにすると、小学校区エリアの資源を活かしながら地域づくりがしやすいという話を伺う。地域自治圏域を地域福祉圏域に改めて、（自治会）を（自治会・小学校区域）にして頂けるとよろしいと思う。
また、中央の地域福祉エリアについては地域包括支援センターの圏域に繋がるので、地域包括支援センターについても記載していただきたい。
- 72 ページの地域福祉エリア（地区民生委員・児童委員協議会）については地域包括圏域で設定しているので、地域包括支援センターの表記も追加したい。また、小学校区についてもご指摘の内容を踏まえ、表現を検討したい。
- 88 ページに地域のコーディネーターについてのコラムが掲載されているが、内容が 4 年前とほとんど変わっていない。また、一番下に「生活支援コーディネーターとの兼務を含め」とあるが、生活支援コーディネーターはあくまで介護施策の役割であるため、兼務の場合、どうしても高齢者の支援に力点が置かれてしまうという事例が他のところから出てくるので、そこはよく考えていただき、出来れば兼務という表現は外していただきたい。ただ、どちらの仕事も大事なので連携していくことは大事だと思う。
- 生活支援コーディネーターとの兼務については他の地域では兼務で行っているところもあると聞き、武蔵村山でも兼務を検討というかたちで記載しているが、社会福祉協議会では兼務は前向きではないということか。
- 例えば 126 ページに生活支援コーディネーターの設置人数の指標があるが、令和元年度は 5 人、令和 8 年度は 5 人と変わらない。それに対して地域福祉コーディネーターは令和元年度が 2 人、令和 8 年度は 4 人となっている。生活支援コーディネーターが地域福祉コーディネーターを兼務するとなると、どちらも人数的には増えないという見方ができてしまう。もしも兼務するとなると、生活支援コーディネーターの令和 8 年度の目標値が 9 人になるのであれば理解できる。
- こちらは市単独では難しく、社会福祉協議会の協力が必要になる。財源についても課題があるので、1 地区 1 人を目標に計画に盛り込み、国や都に対して資金の支援を受けられるようなかたちで計画に載せたい。地域福祉コーディネーターとの兼務という表現については実情を踏まえ、検討したい。
- 前回計画の 121 ページでは計画の関係図、122 ページには市が期待される役割が掲載されていて、その下には社会福祉協議会の役割という記載があった。今回、25 ページの（4）社会福祉協議会についてのところに内容として統合されているというのであれば問題ないが、前回のものについては柔らかに皆様にご協力が伝わる表現で書かれていたの

で、25 ページの部分についてはもう一度相談したい。

- 地域相関図の部分については載せきれない団体等もあり、それならば載せるべきではないという意見があり、取捨選択が出来かねるということで本計画では削除した経緯がある。また、各論部自体に、それぞれ市の役割、市民の役割、事業者の役割、社会福祉協議会の役割ということで、役割毎に記載しているので、あえて再掲させる必要はないということで削除させていただいている。
- 82 ページの子ども食堂のコラムのところで、子ども食堂パブリカについては先月で活動が終了している。
- 実は代替わりする話になっていて、復活する予定である。
- この計画自体は来年 3 月策定になるので、3 月時点で子ども食堂パブリカが休止という状況であれば、2 団体に修正したいと考えている。
- 85 ページの成果指標で共同事業提案制度の利用促進があるが、現在は 12 団体になっているが、令和 8 年度の目標は 16 団体になっているのであと 4 つ増やせばいいのか。目標値として設定は低いように感じる。
- 85 ページの指標については所管課から訂正があり、令和元年度現在は 17 団体、令和 8 年度目標は 31 団体に修正させていただきたい。
- 99 ページの自殺対策において、市内の事業所で出来ることとして、職員にゲートキーパー養成講座を受けさせるとあるが、これは意味があるのか。事業所で働く人たちから自殺者を出さないというスタンスが必要だと思う。メンタルヘルスケアや相談支援をきちんとしていくことが事業所として必要だと思う。
- ゲートキーパー養成講座については、市と見守り協定を結んでいる事業所などに関しては有用かもしれないという視点で書いたものになる。こちらについては、自殺の兆候以外にも不審な動きがあった場合には市の方に連絡が来るしくみが確立している。そのため、ご指摘の通り、事業所の中でメンタル不調者を出さない、事業所内で気を付ける。相談場所を事業所で周知するなど事業所の中の取組に力を入れていくことも必要になるので、そのような取組を追加していきたい。また、50 人以上規模の事業所については従業員に対し、メンタルヘルスチェックを義務化しているのでそちらも記載していきたい。
- 85 ページのお互いさまサロンの開催箇所数になるが、それよりも早い段階で小地域福祉活動に関わっている団体がいくつかあるが、そのような団体は載せなくてもいいのか。行っていることはサロンと同じである。
- 85 ページについては同じサロン活動になるのかもしれないが、小地域活動について社会福祉協議会の取組になるので、市の指標としては計上するのは不適切ということで落とす。
- 72 ページの地域自治圏域のところでも小学校区も加えてほしいというお話があったが、民生委員・児童委員協議会においては小学校区域も重視しており、その単位で課題を見つけたり、対応をしていきたいと考えている。それと同時に防災に対する取り組みも行っており、避難所として小学校の体育館が指定されているので、防災に関しても小学校区域だと話が進みやすいので重視していきたいと考えている。そのため、地方自治圏域についてはぜひ小学校区域も追加していきたい。
- 72 ページにおいては民生委員でも防災活動において小学校区を検討しているということで、小学校区域を追加という方向で検討していきたい。
- 37 ページの一番下で「関係機関と連携を解決するよう努めています」というのは日本語としておかしい。

- ご指摘を踏まえ、修正する。

(2) その他

【今後のスケジュール】

- 第五次地域福祉計画素案が概ね固まったので、本日頂いたご指摘を事務局において修正して、座長・副座長より文言の最終確認をしていただき、計画の最終素案とさせていただきたいと思う。その後、座長・副座長から市長に対して素案を報告させていただくことになる。報告して頂いた素案については12月7日に調整会議にかけて、12月15日から市内の公共施設及び公式HPにおいてパブリックコメントとして市民の皆様に1か月間公開して、市民の皆様のご意見を反映したものを2月上旬の市議会において説明させていただく。その後庁議、市長決裁を経て印刷製本まで進める予定になっている。本日の会議録と報告した素案については後日委員の皆様へ送付させていただきたい。

- これで懇談会としてのすべての活動は終わりになるので、一言ずつ思いを言っていたらと思う。また、本日欠席されている委員からお手紙を頂いているので読ませていただきたい。

「ずっと考えていたが、私の考えとして、福祉とは公助、共助があって、手の届かない部分を自助、互助で補うというものだと思っている。今現在に関しては、ほとんど自助・互助で補い、公助を当てにしないでと言っているように感じる。武蔵村山市において、一般の市民が素晴らしいと納得できる福祉はあるのか。予算も限られているが、その中で市が出来ることはあるのかもしれない。コロナにより私たちの生活も一変しており、これからも変わっていくと思う。少しでも明るく、住みやすいまちを目指していただきたい」というご意見を頂いている。

- 市民としても色々お世話になっている。意見をあまり述べることはできなかったが、本当に勉強になったと思っている。今後も、できることには協力していきたい。
- いろいろなお話を伺って、理解を深めることができたと思う。皆様から聞いたお話を今後の活動に生かしてこれからも続けていきたい。
- 私は権利擁護に関する活動を行っているが、高齢になると判断能力はあっても出来なくなることが出てくると感じている。しかし、代理権を持たない人間が、それを代わりに行うのは難しい。このような高齢社会であるが故の問題を、どのような計画に組み込んでいくのかというのは今後の課題だ。
- 武蔵村山に長いこと住んでいるが、皆様がこんなにもいろんなことを考えているということですごく勉強になった。
- 皆様の意見を聞いて勉強になった。私も子ども食堂の活動に関して携わっており、今後も頑張りたい。
- 私も皆様の意見を聞いて勉強になった。これをきっかけに皆さんの活動を支えたい。
- 私は障害者施設で働いていて、武蔵村山市に住んでいるわけではないが、この武蔵村山市に来て、武蔵村山の資源として沢山の活動があることを改めて知った。障害者に関しては家族の問題や貧困の問題など様々なことが絡んでくるが、横のつながりがなかなかうまくいかないという現状がある。横のつながりがうまくスムーズになればと思っている。
- 私もとても勉強させていただいた。私は高齢者施設で働いており、今後は計画が順調に進めるように、ボランティアや社会福祉協議会と関わることもあるので、よろしくお願ひしたい。
- 私はボランティア・市民活動センターの立場として、自分が分かるところを中心に意見を出してきたが、おかしい点の指摘だけでなくこちら

